



会員寄稿

「夢を信じる力が未来を拓く」

進路課長 村井 智士

秋の風が校舎を包み、空が高く澄み渡る季節となりました。自然が静かに移ろいを告げる中、藤樹祭が盛況のうちに幕を閉じました。仮装行列、体育祭や文化祭など、生徒たちの創造力と協働の力が結集したこの行事は、学校全体が一体となる貴重な時間であり、地域の皆様との温かな交流も生まれました。

藤樹祭の終わりは、達成感とともに、次の目標へ向かう新たな一歩でもあります。生徒たちは今、進路という人生の選択に向き合い始めています。進路とは、単なる進学や就職の選択ではなく、「自分らしい生き方（キャリア）」を見つけるための大切な機会となります。

進路指導の現場では、「やりたいこと」と「できること」の間で悩む生徒の姿をよく見かけます。現実と理想のギャップに戸惑い、時には自信を失うこともあります。しかし、夢を信じることで、少しずつそのギャップを埋めていくことができます。夢は、努力の方向を示すコンパスであり、迷ったときの灯台でもあります。エレノア・ルーズベルトの言葉に、「未来は、自分の夢の美しさを信じる人のものである」というものがあります。この言葉には、『たとえ周囲に理解されなくても、自分自身がその夢を「美しい」と思えるなら、未来はその人のものになる』そんな力強い励ましが込められています。夢を信じることは、自己肯定感を育てます。「自分にはできる」「この道へ歩みたい」と思えることが、子どもたちの内面を強くし、困難に立ち向かう力を育成します。また、夢に向かって努力する姿は、周囲の人々に勇気や希望を与えます。友人や家族、先生との関係の中で、夢を語り合い、支え合うことで、絆が深まり、互いの成長を促すことができます。進路選択の過程では、時に迷いや不安がつきまといきます。情報の多さ、選択肢の広さ、社会の変化など、子どもたちが直面する課題は決して小さくありません。しかし、夢を信じることで、そうした不安に立ち向かう力が生まれます。夢は、未来への希望であり、困難を乗り越えるための支えとなります。

1年生は、これから文理選択という初めての進路決定を迎えます。自分の得意分野や興味、将来の夢に向き合いながら、学びの方向性を選ぶこの選択は迷いや不安もあるかもしれません。10年後、20年後の自分の将来を見据え、「どの就職先に」「どの大学に」「どの学部」にということ意識しながら、目的意識をもって「これから進んでいく道」を自分の理想に近づけるために自分自身と向き合う時間を大切にしてほしいと思います。

2年生は「3年生0学期」と呼ばれる、次年度への準備期間に入ります。2年生は進路の具体化に向けて、情報収集や体験活動を通じて視野を広げる時期です。夏のオープンキャンパスなどを経て自身の志望する大学や学部がより明確化されてきたかと思いますので、志望校のホームページなどで最新の入試情報をよく確認して受験に必要な科目について理解を深めてもらいたいと思います。

3年生は受験に向けて本格的な学習が始まり、志望校の決定や出願準備など、現実的な選択が求められる時期です。総合型選抜や学校推薦型選抜などが本格的にスタートすることとなり、受験勉強はもちろん、大学入学共通テストの出願や校内外に提出する様々な書類の準備・手続きなど、確実に遂行しなければならない事項も多くなり、心身ともに疲れやすい時期になります。しっかりと体調を管理しながら、自己の目標実現のために悔いの残らぬよう精一杯頑張ってもらいたいと思います。保護者の方におかれましても次の点に注意していただき、子どもたちの援助をしていただけると大変ありがたく思います。

○早めの情報収集と準備

総合型選抜・学校推薦型選抜は、一般選抜よりも早く動き出す必要があります。出願書類や面接対策など、夏～秋にかけて準備が必要です。志望理由書では、お子様が自分の言葉で将来を語れるよう、日常の会話の中で「なぜその分野に興味があるのか」「大学で何を学びたいのか」を一緒に考えてみてください。

○学校との連携

大学入学共通テストの出願、志望校へ提出する出願書類など様々な手続きが多くなるため、学校との連携が重要です。ご不明な点がございましたら遠慮なく学校の方へ問い合わせしてください。

保護者の皆様には、日頃より温かなご支援とご理解を賜り、心より感謝申し上げます。進路は、子どもたちだけのものではなく、家庭と学校が共に築いていく「未来への地図」です。保護者の皆様と共に、生徒一人一人の進路実現に向けてまい進していく所存ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

